

臨床研究へのご協力をお願い

当院では倫理指針および法令を遵守して下記の臨床研究を実施しています。新たに検査や治療を追加することはなく、費用も発生しませんので、ご協力をお願いいたします。

課題：多嚢胞性卵巣症候群の子宮形態における胎生期の子宮内環境の影響に関する研究

対象：当院でホルモン検査と超音波検査を実施する40歳未満の女性

研究期間：2024年3月31日まで

目的と方法：多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）は、生殖年齢女性の10～15%に発症し、増加傾向にある原因不明の排卵障害です。PCOSでは2型糖尿病や心血管疾患を合併することが多いため、健康管理の観点からも非常に重要な疾患として認知されています。近年、PCOSの病因として胎児期の子宮内環境が注目されています。2022年に当院では、PCOS女性の子宮形態が非PCOS女性と異なることを報告しました。そこで今回、その違いが胎生期のアンドロゲン作用によって起こるという仮説のもと、高アンドロゲン暴露の指標とされている「肛門性器間距離（AGD）」と「示指環指比（DLR）」との相関を調査することとしました。また、胎内環境の手がかりとして、ご自身の出生時の状況、母親の月経異常や不妊治療の有無について、問診で確認します。PCOSの診断には、超音波検査と血液検査によるホルモン測定が必須なので、診療においてそれらの検査が必ず行われる不妊や月経異常のある40歳未満の女性に対象を限定します。AGDとDLRの計測、病歴の確認については、当院の看護スタッフが行います。

集める情報：年齢、身長、体重、初経年齢、月経周期、経膈超音波検査計測値、AGD、DLR、ホルモン基礎値（LH, FSH, estradiol, testosterone, PRL）、妊娠分娩歴、既往歴、手術歴、ホルモン薬などの服用状況、ご自身の出生状況、母親の月経異常の有無と不妊治療歴

個人情報の保護：取り扱う患者情報は個人情報をすべて削除し、第三者には一切わからない形で使用します。

連絡先：本研究に関する質問や確認は、研究責任者にご連絡ください。本人またはその代理人より、情報利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行います。

〒030-0843 青森市浜田3-3-7 エフ.クリニック 院長 藤井俊策（研究責任者）